

北海道浮魚ニュース

令和4(2022)年度14号

2022年9月9日

道総研 釧路水産試験場

【URL】 <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/2022UKIUO.html>

◎道東太平洋イカ類南下期資源調査結果

・調査海域のスルメイカ分布密度は低い水準にあったと考えられる

- ・調査期間：2022年8月17～21日
- ・調査海域：道東太平洋沿岸
- ・調査船：北辰丸(255トン、イカ釣機5台装備)
- ・調査方法：イカ釣機による1晩2地点の夜間釣獲調査、CTDによる海洋観測

1. 水温環境及び流向流速

調査中に調査船の機関に問題が発生し、修理のため帰航となったため、2022年の調査は10調査点のうち広尾沖 St.2、落石沖 St.9、根室沖 St.10の3点のみの実施となりました。調査を実施した3点の表面水温は、十勝海域の St.2 では2021年と同じ17.4℃でした。根室海域の St.9 は13.2℃、St.10 は12.7℃でいずれも2021年より低い値でした。50m深の水温は、St.2 が10.8℃、St.10 が6.9℃でいずれも2021年より高く、St.9 が7.1で2021年より低くなっていました。

今回の調査で ADCP (超音波流速計) により得られたデータのうち、広域的な水塊構造の目安となる100m深の流向流速を図2に示しました。厚岸沖から十勝海域にかけて、東から西に向かう親潮系の水と考えられる弱い流れがみられ、海洋観測結果でのこの海域の塩分値が低かったことと併せて、調査海域は親潮系の水の影響を受けていたと考えられます。

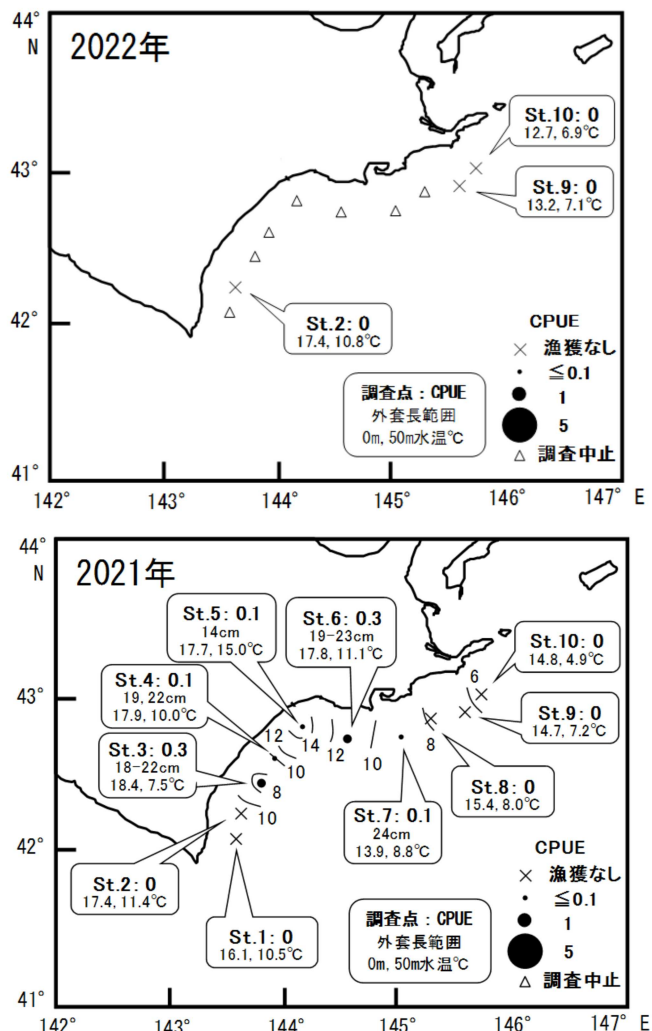


図1 2022年(上)と2021年(下)の漁獲調査結果と水温。●は漁獲調査点を示し大きさはCPUE(イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数)を表す。2021年の等温線は50m深の水温分布

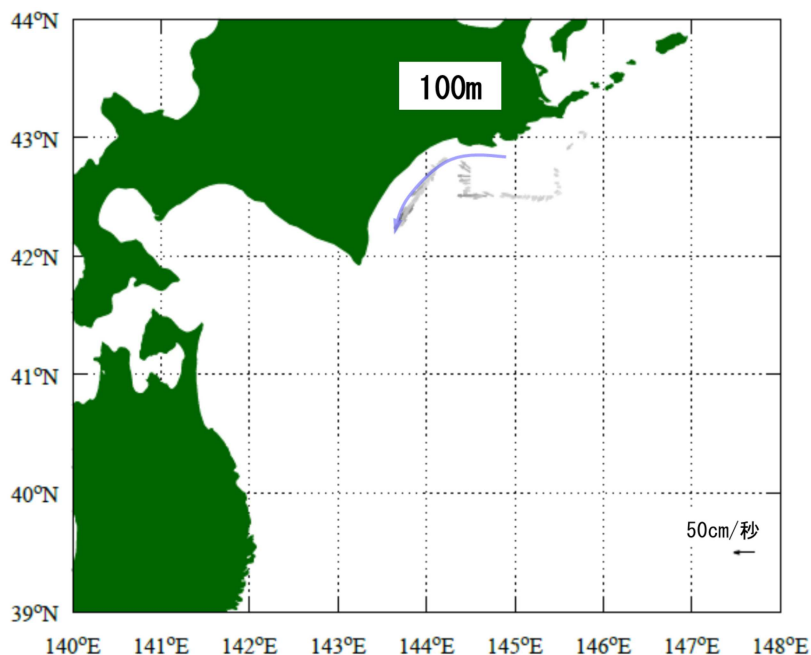


図2 ADCP 観測により得られた 100 m 深の流向流速。青い透明矢印は模式的に表した全体的な流れの概略

2. スルメイカの分布密度

漁獲調査を実施した広尾沖 St.2、落石沖 St.9、根室沖 St.10 では3点ともスルメイカの漁獲がありませんでした(図1)。各調査点の CPUE (イカ釣機1台1時間あたり漁獲尾数)の平均は0(参考値)で過去最も低い値となりました(図3)。今回調査を実施した3点は全て2021年の調査でも漁獲のみられなかった点でしたが、それを考慮しても調査海域におけるスルメイカの分布密度は低い水準にあったと考えられます。

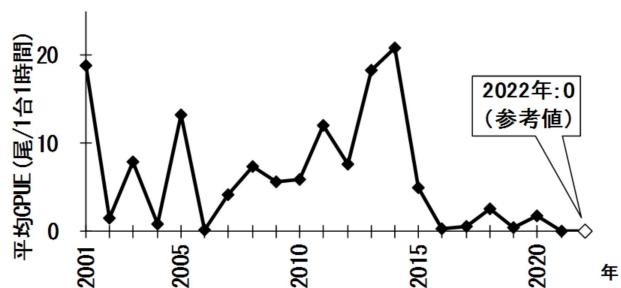


図3 8月道東太平洋調査におけるスルメイカ平均CPUEの経年変化(2022年は参考値)

3. アカイカ

本調査でのアカイカの漁獲は3年連続でみられませんでした。

(釧路水産試験場調査研究部 TEL: 0154-23-6222, FAX:0154-23-6225)